

令和4年度
自己評価実践報告書



福島県立船引高等学校

〒963-4398 田村市船引町船引字石崎 15-3

Tel 0247-82-1511 Fax 0247-82-5233

令和4年度 自己評価実践報告書

学校名 福島県立船引高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

(1) 『学校経営・運営ビジョン』 (別紙)

(2) 教育目標、重点努力事項等作成のねらい、意図等

「教育目標」を踏まえ、本校の現状と目標達成度、県の施策、社会情勢を検証し、学校経営の重点事項を「学力向上の推進」「豊かな人間性の育成」「キャリア教育推進と進路指導」「信頼される学校づくり」の4つとして、さらに具体的重点項目を設定している。

(3) 組織的にどのように作成したか、作成のプロセス等

ア 生徒用アンケート

7月と12月にLHRにて説明の上実施後回収し、集計・分析

イ 保護者アンケート

7月と1月に実施後回収し、集計・分析

ウ 学校評議員の意見聴取

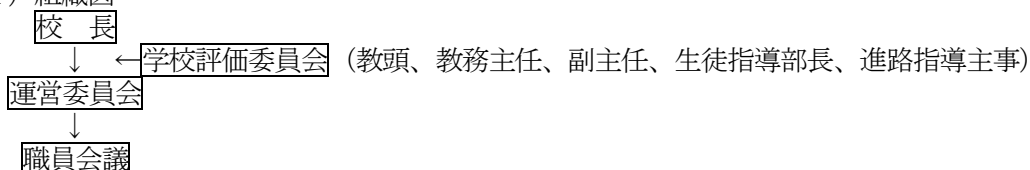
エ 学校評価委員会において、アンケートの結果を分析

オ 教職員へのアンケートと各部、学年の反省

カ 校長が学校の経営・運営の方針を提示し、職員会議で協議の上、決定

2 校内組織体制について

(1) 組織図



(2) 組織作成のねらい、意図

学校が実践する教育活動全体をPDC Aサイクルにより評価し、改善することで本校の教育活動の質の向上を図る。

学校の教育活動の現状、課題、成果を保護者及び地域社会に説明、公表することで、学校への理解と信頼を高めるとともに、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を推進し、生徒の人間的成長、進路実現を目指す。

3 自己評価年間計画について

時期	実施内容
4月上旬	・ 職員会議において当該年度の「学校経営・運営ビジョン」の確認 ・ 「学校経営・運営ビジョン」を学校Webサイトへ掲載 ・ PTA総会（紙面）において、前年度の反省及び当該年度の「学校経営・運営ビジョン」の説明
6月上旬	・ 第1回学校評価委員会で実施日程と内容、学校評価アンケートの内容、時期、回数、改善点について協議
7月中旬	・ 前期学校評価アンケート実施、集計
9月中旬	・ 第2回学校評価アンケートの分析、反省、職員会議への報告
11月中旬	・ 学校評議員の意見聴取
12月中旬	・ 生徒の学校評価アンケート実施
1月下旬	・ 保護者への学校評価アンケート実施
2月上旬	・ 学校評価アンケート集計、分析
2月中旬	・ 学校評議員の意見聴取
2月中旬	・ 学校評価アンケート分析結果を職員会議へ報告、協議、学校Webサイトへの掲載
3月上旬	・ 各部、学年の反省、改善事項を職員会議へ報告、協議

評価結果の概要

1 実施時期、実施方法

「学校経営・運営ビジョン」の重点努力目標の項目の中で、生徒・保護者・教職員に対し共通する20項目について質問し、重点努力目標の取組に対する三者の意識を比較検討できるようにした。

評価者	中間評価		最終評価	
	実施時期	実施方法	実施時期	実施方法
教職員	7月下旬	教職員自己評価	12月下旬	教職員自己評価
生徒	7月30日	アンケート	12月17日	アンケート
保護者	8月上旬	アンケート	12～1月	アンケート
学校評議員	11月11日	意見聴取	2月17日	意見聴取

2 アンケート及び回答数

評価者	中間評価			最終評価		
	第1回アンケート（7～8月実施）			第2回アンケート（12～1月実施）		
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合
教職員	30	30	100.0%	30	30	100.0%
生徒	280	277	98.9%	279	279	100.0%
保護者	280	267	95.3%	279	161	57.7%

3 評価基準について

評価	5	4	3	2	1
評価基準	業務を期待されるレベルを超え実施でき、実績を上げた。	業務を期待されるレベル以上に実施できた。	業務を適切に実施した。	業務を期待されるレベルまで実施できなかった。	業務の実施に問題がある。

4 年度末評価のまとめ（資料は「基礎資料」に添付し、ここでは概要のみ文章で）

(1) 年度末評価実施の目的、意図

生徒の現状、保護者の考え、教職員による校務の反省、改善を通してPDCAサイクルにより改善を図る。

(2) 年度末評価結果の概況

① 学校生活について

生徒の約90%は学校生活が充実したものと感じており、保護者からも肯定的な回答が得られている。昨年度に比べて、今年度は学校行事や修学旅行が感染対策を講じながら、通常により近い形で実施できたことが、生徒の学校生活や学習への取組に対して意欲の向上につながったとみられる。

② 学習について

本校の授業は「わかる授業」となるように工夫されていると思うかの質問に、「よくあてはまる」と回答した生徒が、前期アンケートと比べて後期アンケートでは約9%減少している。特に1年生は、高校の授業の難易度が上がる中で、理解が難しい生徒に合わせた個別指導もさらに必要になると思われる。3年生の進路実現に向けた活動を目の当たりにし、自分自身の進路について考えるようになったことで、勉強への意識が向上し、生徒自身が分かろうとする努力をしていると考える。

③ 進路指導について

あなたは、本校の進路実績を知っているかという質問に対して、「知っている」及び「だいたい知っている」と回答した生徒は、前期アンケートと比べて後期アンケートでは約6.3%増加した。進路指導部により周知を図ったことが反映されたものと考え。一方で保護者の回答はほぼ横ばいであるため、3年生が内定した企業や合格した進学先をClassi等を活用して伝えることで知るきっかけになるのではないかと考える。

④ 生徒指導について

多様性の観点から、服装・頭髪の規則や指導のあり方について、一部の生徒や保護者から見直

しを求める声が挙がっている。職員全体で共通理解を図り、「地域から信頼され、地域に必要とされる学校」として子どもたちに自覚を促しながら、学校全体で校則を見直し生徒が納得する指導を行っていく必要がある。

⑤ 保健指導について

学校の美化活動に努め、きれいな状態を維持するように心掛けているかという質問に、「よくあてはまる」及び「ややあてはまる」と回答した生徒は約98.5%であり、肯定的な回答が非常に多い、新型コロナウイルス感染予防の取り組みとして清掃時の消毒やスクールサポートスタッフの協力により日々の環境整備や感染予防の徹底が浸透している結果であると考えられる。

(3) 重点努力事項に対する達成状況

項目	年度末評価			
	実施部署	評価	実施方法	コメント
学力向上の推進	教務部	4	学力向上と学習習慣の確立 授業の質的向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> 新しい観点別評価の導入期指導を充実させた。成績不振者にはさまざまな機会に話をし、高校における学びの確立に尽力した。 長期休業中の課題及び課題テスト、課外の実施状況と成果の検証を行うことで有用性を向上させていきたい。 各教室にICT機器が配備し効果的な学びを推進した。校内研究授業実施週間を設定し、授業づくり及び観点別評価の研究に取り組んだ。 少人数指導、習熟度別指導を実施することで生徒個々の段階に応じた指導に特化することができている。
豊かな人間性の育成	生徒指導部	3	規律の向上	<ul style="list-style-type: none"> 鵬翼祭やたむら支援学校との合同体育祭など、生徒主導の行事運営を支援し帰属意識を高めることができた。 多様性の観点から今後校則を見直していく。 今年度からスマートフォンの一斉回収を止め、生徒がルールを守って自分で管理することとした。校内でスマートフォンを利用してSNSに書き込みを行ったケースがあり、情報モラルについての指導を行った。
	生徒指導部 保健厚生部	3	教育相談体制の整備及びいじめへの取組	<ul style="list-style-type: none"> SCが1年生全員と面談を行い生徒理解を図った。またSC、医療機関と連携し、生徒の心のケアに努めた。 今年度のいじめの認知件数は3件であり、昨年度と比較して3件増加した。しかし、早期に認知し対応したことにより大事には至らず、状況は改善している。
	図書部	3	生徒への読書指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書指導を継続して行った。各教科が題材を設定し、生徒に作文・小論文に対する知識を深めさせた。次年度は見直しを図り、より読書に特化した方法を検討している。 図書館だよりの作成、ビブリオバトルの開催を通して、図書委員会活動が活性化した。

キャリア教育推進と進路指導	教務部	3	地域連携活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> デュアル実習では課題解決型の取り組みの準備を進め、内容の充実を図った。 アクティブラーダー育成プロジェクトを継続し、生徒が主体的に地域理解できるよう取り組んだ。
	進路指導部	3	生徒の進路目標の早期決定 個に応じた進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> 3回の進路希望調査を面談指導等への機会とし、進路希望未定者の減少が見られた。アンケートの実施により家庭学習時間における課題が職員間で共有できた。進路指導部と学年が連携して生徒と面談し進路の早期決定を促し、面接指導を繰り返し実施することで就職希望者内定率は100%となった。 進学を希望している生徒には2年次から個別指導を継続して行い、大学受験に向けてきめ細かい指導を行った。今後は、より早期に効果的な指導体制をつくる必要がある。
信頼される学校づくり	進路指導部	3	進路手続きの円滑かつ確実な業務遂行	<ul style="list-style-type: none"> 点検簿の作成や複数の教員による確認作業の徹底により、諸手続きを確実に行うことができた。
	保健厚生部	3	校内での感染症予防の徹底	<ul style="list-style-type: none"> マスク及び手指消毒剤の整備と使用、清掃時の消毒作業の徹底により、生徒の感染に対する意識を向上させた。早期対応により感染者は最小限にとどめられた。

(4) 分析に基づく改善の方向

- 学習習慣を構築するために、長期休業中の課題及び課題テスト、課外等の有用性やあり方を検証し、ICTを活用しながら生徒の学習意欲の向上と家庭学習への取組を継続して推進する。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、状況に応じた実施案を複数作成しておくことにより、その時点で提供できる最大限の教育活動を企画実施し、生徒の帰属意識を高める。
- 修学旅行をはじめ、各種行事について、生徒の心の成長に必要な体験活動の機会を確保し、生徒の心の成長とケアを意識した教育活動を仕掛けていく必要がある。また、適応推進委員会をはじめとする教員間での情報共有とチーム支援により、いじめ対策を継続する。
- 特別な支援を要する生徒に対応するため、特別支援コーディネーターや個別支援コーディネーターを中心に組織的に対応する体制をつくる。
- 上記を改善するためには、業務を精選しないと教職員の負担が増し質が低下する恐れがあるため、ICTの効果的な活用や焦点を絞りスリム化を図っていく必要がある。

III 広報の概要

(1) 目的や意図

生徒の活動内容を広く伝え、また、地域の方を講師等に活用することで、地域や保護者に本校の教育活動への理解と協力を促し「地域から信頼され、地域に必要とされる学校」を促進する。

(2) 実施計画及び実施状況

- ア 学校Webサイトの更新、田村市広報紙への掲載により地域や保護者に生徒の学校生活の様子や活躍の様子を周知する。
- イ 総合的な探究の時間や進路講演会等に地域の有識者を外部講師として活用する。
- ウ アクティブラーダープロジェクトの活動風景を学校Webサイトに掲載し、地域貢献に取り

組む生徒の活躍を発信する。

(3) 実施してみたの反省点等

- ア 学校Webサイト、Classiによる情報発信を迅速に行うことができた。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時の連絡等で有効な方策であった。
田村市広報誌「船高だより」「議会だより」は、地域の方に広く本校の教育活動を周知するために有効である。今後も掲載記事の内容を吟味し、計画的に行っていく。
- イ 地域の有識者からの専門的な講義、人生経験からの助言により、生徒の進路意識を高める指導を行うことができた。
- ウ 本校の特色である地域貢献活動を推進する体制と客観的評価を行う仕組みづくりが必要であるが、生徒が地域の実情を知り、課題解決型の取り組みと発信（活動成果発表会の開催、学校Webサイトの掲載）を行ったことは、大変意義深いものとなった。

IV 次年度へ向けて

今年度の学校経営・運営は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を優先しながら、新たな生活様式のもとで、教育の質を低下させない取組を念頭に置いたものであった。

学習については、コロナ回復後の状況を見通しながら、授業時間確保の工夫や学校行事のあり方を見直していく。また、ICT機器を活用した学習指導の実践事例を増やすとともに、観点別評価を中心とする学習評価のあり方について研究をさらに深めていく。

生徒指導については、昨年12月に生徒指導提要が改訂されたことを踏まえ、生徒指導の基本的な考え方や取組の方向性等を再整理し今日的な課題に対応していく。生徒のICT機器及び携帯電話の取り扱いの指導や生徒の多様性に対応した校則づくりに着手していかなければならない。

今年度も継続し、学校の取組や生徒の活動の様子をリアルタイムで広報することに努めた。特に学年によるClassiでの発信は、スマートフォン等で受信が容易なことから、保護者に対して本校の教育活動等を知らせる有効な方法であった。本校に対する保護者の関心や期待を確認することもでき、学年の取組に反映させることができた。

また、田村市版デュアルシステムをはじめ、ドローンの取組、地域を担う人材育成に関する企画など田村市との連携・協力を推進してきた。今年度は、アクティブリーダー育成プロジェクトによる避難所宿泊体験への参加や福島テレビの気象予報士の齋藤恭紀様を講師に迎え「田村市の気象と災害について」というテーマでの講演を田村市政だより内の「船高だより」やホームページ等で情報発信をすることができた。本校が地域と共に歩む学校として関係者から理解と協力が得られ、学校経営・運営の方針が保護者、地域から一定の評価を得られているので、これを継続していきたい。

今後も、地域との連携を強化し、生徒一人ひとりがより高い進路目標に向かって自己実現を図ることができるように努めていく。また、たむら支援学校高等部と同じ校舎で教育活動を行っているので、学校行事等の交流により多様な価値観を尊重する心を養い人間性を高めていきたい。